

2023宮城県議選 立候補予定者 こども・子育て政策に関するアンケート

回答者名【福島かずえ】 立候補予定選挙区【若林】 所属政党【日本共産党】

問1. 子どもをもう一人、と望む家庭でも経済的理由から二の足を踏む親御さんもいると聞きます。東京都の018サポートや、大阪府の子育て世帯向け食料支援など、経済支援を行っている都道府県もありますが、子どもを生み育てやすい県にするために、宮城県には何が必要と考えますか？

正規雇用の確保、教育費の保護者負担の軽減(具体的には、学校給食の公費負担、返済なしの給付制奨学金など)子ども医療費の18歳までの無料化。

問2. 埼玉県議会で提出されていた虐待禁止条例の一部改正案については賛否両論の声があがっていました。宮城県においてもこのような法案が必要と考えますか？

必要ない。埼玉県で自民党が提出していた条例は、子育てに困難を抱えている保護者をいっそう追いつめるもの。社会全体の責任での子育て支援をもっと充実すべき。

問3. 子育て世帯の関心が高いいじめ問題ですが、宮城県としてどう対策していくべきと考えますか？

学校の教職員を独自に増やし、こども1人ひとりに目が行き届く、状況をつくること。少人数学級を県として行うこと。

問4. ひとり親家庭には、医療費のサポートがあるものの、一度立て替えた上で後日振り込まれる方法となっており、経済的に厳しいという声があります。これについてどうなっていくべきと考えますか？

県として、窓口で立て替えなくてもいいように、現物給付制度にすべき。そうしている自治体もあるので。また、いわゆる足切り制度をやめ、自己負担をなくすべき。もなくすべき。

問5. 今年8月に発表された宮城県医療的ケア児等相談支援センター(愛称:ちるふぁ)の調査によると、医療的ケア児は県内に333人います。支援は進んでいますが、一方当事者からはまだ相談してもらい回しになるという現状は変わってないという声もあります。医療的ケア児の相談体制としてはどうなっていくべきだと思いますか？

もっと、人と予算を増やして具体的に、一人ひとりの相談に応じることができるようにすべき。市町村との連携にも力を入れるべき。

こども達のために、日本を変える

Florence